

## 2022年度事業計画（案）

### 1. 基本方針

2022年度日本包装学会では、「包装学の深化と体系化、社会の要請に応えうる開かれた学会づくり、包装分野を担う次世代人材の育成、国際化の推進」を主な柱に事業を展開します。具体的事業としては、会員相互の研究情報の交換・啓発のための研究発表会、シンポジウム、各種研究会等の開催、並びに学会誌「日本包装学会誌」の刊行などです。以上の目標を実現するために、以下の方針を立てます。

#### 「産官学共同プロジェクトによる研究推進」

産業界との結びつきが強い学会の特色を生かした産官学共同プロジェクトによって得られた研究成果を発表し研究を深化させる場として、学会誌、年次大会およびシンポジウムや研究会主催イベントの活性化を目指します。

#### 「女性や学生を含む若手が主役となる学会運営」

学会関連イベントや委員会における運営組織において、優先的に女性・学生を含む若手会員を抜擢し、急速に変化する社会の要請に対して即応できる学会を目指します。

#### 「ボーダレスへの対応」

リモート形式の研究発表の場が広まり、公表論文等の刊行物も電子化されほぼリアルタイムで共有化されているなかで、他の（国際）学術団体や関連（国際）ジャーナルとの連携や学会からの情報発信の在り方等について検討します。

#### 「会員数増強への取り組み」

新規個人正会員入会への呼びかけをこれまで以上に積極的に行うとともに、学生会員から正会員への資格変更を促すためのインセンティブや、維持会員入会の新しいインセンティブとなる取り組みについて検討します。

### 2. 学会の運営計画

#### 2-1. 通常総会

メール配信、web審議等による開催を計画する。

#### 2-2. 理事会

2回の開催とする（総会との同日開催は見送る）。

#### 2-3. 会長補佐会議

2回または3回開催の予定とする。ただし、緊急性の高い審議事項のある場合は、臨時に開催するものとする。

### 3. 各委員会の活動計画

#### 3-1. 編集委員会

- 編集委員数を上限の20名まで増員し、委員会内の交流を活発化する
- 委員会のダイバーシティーをさらに拡大してゆく
- 時機を得た特集を掲載してゆく
- 会員にニーズが高く有益な情報を学会誌に紹介してゆく
- 引き続き論文投稿を促進するとともに、総説を少なくとも年に2回を目標に掲載する
- 上記に基づく会員増に努める

##### (長期活動方針)

- アカデミックな分野の方への解説執筆の依頼を増加し、学会外に対する認知を高め、論文投稿数を増加する。

##### (他委員会との協働)

- 企画委員会が開催するシンポジウムのテーマと学会誌の特集テーマが類似している場合があるので、講演者の方に原稿をお願いしたり、あるいは時期が近い場合はずらしたりするなど、情報交換できるとありがたい。
- 広報委員会とは、高山委員長から学会誌の「用語」を学会HPに掲載することや、論文を外部HPに公開することなどについて相談を受け、対応を始めている。

#### 3-2. 企画委員会

- シンポジウムを3回開催する。第85回：2022年6月10日に「プラスチック代替新素材・新技術の探索」について開催決定。第86回：2022年11月28日に医薬品関連の4、5題で開催予定。また、第87回：2023年2月に循環型社会の実現に関連するテーマ4、5題で開催予定。なお、うち1回（第86回もしくは第87回）はオンラインで開催する。
- 各シンポジウムの企画および状況に関する確認と委員間の意思統一を図るため、企画委員会を3回以上オンライン形式で開催する（第139回：2022年5月10日開催、第140回：2022年8月末～9月上旬予定、第141回：2022年12月上旬予定。また、2023年度向けに第142回：2023年5月予定。その他、必要と認められる場合。
- 企画立案の参考とするため、アンケート調査を3回のシンポジウムのうち最低1回で実施する。

##### (長期活動方針)

- 社会情勢等を勘案しながら、集客力の高い企画を立案し続ける。医薬品担当委員の強化を図りたい。

##### (他委員会との協働)

- シンポジウムの講演者に解説記事を依頼するなど、編集委員会との連携を想定。
- オンラインウェビナー用のアカウントを確保し、各委員会と共用したい。

### 3-3. 研究委員会

#### (1) バリア材料研究会

第25回バリア材料研究会の開催

#### (2) 輸送包装研究会

輸送包装ディスカッション2022の開催

#### (3) 包装とIoT研究会

オンライン形式のイベントを実施

#### (4) 若手の会

用語集の周知、販売促進活動

現在活動中の4つの研究会は今後も継続し、当会の活動を通じて学会の活性化をめざす。

#### (長期的活動方針)

各研究会の長期的活動方針は次のとおりである。

- バリア材料研究会 米国、欧州、日本／アジアの各極にメンバーと拠点を持つ強みを生かした情報交換や人材交流。
- 輸送包装研究会 輸送包装ディスカッションによる情報交換や人材交流の場を提供。
- 包装とIoT研究会 「情報ITネットワーク社会における包装」という切り口から、モノのインターネット、クラウドコンピューティングを含めて包装の新領域を開拓する技術者の支援をしていく。
- 若手の会 学会の振興と学会誌への投稿数の増加につながる活動を継続して実施する。

#### (他委員会との協働)

- 広報委員会、編集委員会との連携により、研究会イベント開催案内（WEBサイト掲載、メールマガジン配布、学会誌への案内）を効率的に行う

### 3-4. 大会運営委員会

#### (1) 年次大会に向けた委員会活動予定

- 第243回 2022年4月12日 web会議審議
- 第244回 2022年6月14日 web会議審議
- 事前確認 2022年6月17日
- リハーサル 2022年7月12日
- 大会1日目 2022年7月21日 口頭発表・ポスター発表（ZOOMミーティング）
- 大会2日目 2022年7月22日 口頭発表（ZOOMミーティング）

- 口頭発表オンデマンド配信（Webサイト掲示） 7月26日～7月31日
  - ポスター発表（Webサイト掲示） 2022年7月8日～7月31日
  - 質問フォーム受付 2022年7月8日～8月26日
  - 質問フォームに対する発表者回答 2022年9月16日締め切り
- 以降の日程詳細は未定（2022年10月 アンケート集計等まとめの予定）

（2）第32回年次大会について

- 日程 : 2023年7月（日程調整中）
- 会場 : 社会情勢を踏まえ、開催方式含め、今後検討していく

3-5. 広報委員会

（1）Web関連

Webページ更新作業、メール配信作業を中心に活動する。ただし、各委員会から要望が発生した場合は柔軟に対応していく。

（2）東京パック対応

東京パック2022において1小間出店し、包装学会の活動を業界関係者へPRする。

（3）包装学会誌巻末「用語」のデータベース化とHP公開の検討

学術情報の有効活用及び会員サービスの向上のため、「用語」のデータベース化を検討する。会員外でもアクセスできるようにすることで、学会HPの訪問者件数の増加、学会活動の認知を広める。

（4）投稿論文の公開方法の在り方についての基礎調査

投稿論文（特に一般論文）の公開方法の在り方を検討する際の、現状把握と意見聴取を行う。現在、論文は学会誌で公開された数年後にHP上で公開されるが、デジタル社会が加速する中、著者の研究成果をどのような形で社会還元することが望ましいか議論を開始したい。そのための基礎調査を行う。

- 現在の公開方法決定に至るまでの考え方や経緯の整理
- 他学会での公開方法の考え方と方法
- 包装関連団体への意見聴取

（長期活動方針）

- 包装学会発展の一助となるべく、学会内の活動及び学会の保有する学術的知見について効果的に会員へ提供する。また、会員外にも適切な範囲の情報提供を行い、学会活動の理解・関連団体との協同体制を高める。

（他委員会との協働）

- 2022年度計画の（3）と（4）について編集委員会、総務委員会の連携が必要

### 3-6. 国際交流委員会

2023年の大会時にIPSを開催できるか準備をすすめる。2022年末ころにはその開催可能性についてある程度方針を明らかにする。

(長期活動方針)

- ポストコロナにおいてどのような国際交流を行うことができるか議論を進める。

(他委員会との協働)

- 2023年度にIPSを現地開催できるかどうかを大会実行委員会と連携して議論を進める。またIPS開催については予算を確保する必要があるため財務委員会とも連携を取る。

### 3-7. 学会賞等選考委員会

年度末までに、学会賞、奨励賞、論文賞、功労賞について、授賞選考を行う。

### 3-8. 財務委員会

- 支出削減による収支バランスの健全化
- 毎月の財務状況確認による健全な財務運営
- 各委員会活動を支援可能な予算の作成。

### 3-9. 総務委員会

総会、理事会、会長補佐会議の事務局として、効率的な学会運営を進める。学会活性化、財務健全化に向け、会長補佐会議、理事会での討議を進めていく。